

令和元年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和元年7月5日（金） 午後1時30分～3時00分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席

委員長 萩原 司

副委員長 小島 道裕

委員 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 内山 栄理子

（教育委員会）

生涯学習部 潮見部長

同部文化財課 滝田課長、児玉課長補佐、西田主査

（事務局）

同部加曽利貝塚博物館 加納館長 植草副館長

同部郷土博物館 朝生館長、芦田副館長、錦織主査、

外山総括主任研究員、土屋主任主事

4 議 題

(1) 平成30年度の事業報告について

(2) その他

5 議事概要及び議事結果

3 議 題

(1) 平成30年度の事業報告について

平成30年度の加曽利貝塚博物館及び郷土博物館の事業報告について説明し、各委員から意見や要望が出された。

(2) その他

郷土博物館から、答申で出された8つの留意事項について、現在の取り組み状況を説明した。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により、潮見部長の挨拶、新任の内山委員の紹介と挨拶、関係職員の紹介を行った。

その後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）平成30年度の事業報告について

< 説 明 >

加曾利貝塚博物館及び郷土博物館から、平成30年度の事業報告について説明した。

< 質疑応答等 >

萩原委員長 ただいま、事務局より説明があったが、質問や意見などがあつたらお願いしたい。

鈴木委員 新しい加曾利貝塚博物館については整備計画が策定されているが、開館はいつ頃なのか。

滝田課長 新博物館の開館は2024年を目標としている。

鈴木委員 現在の博物館は開館中なのか。

滝田課長 開館中である。

鈴木委員 現在の博物館の閉館予定はいつ頃か。

滝田課長 新博物館の開館と同時に、現在の博物館を閉館し、撤去する予定である。

小島委員 加曾利貝塚博物館の職員体制について、学芸員の人数、新博物館の開館に伴う今後の増員計画などを聴かせてほしい。

滝田課長 新ガイダンス施設（博物館）の基本計画の中で、施設に求められる機能、諸室の構成、運営体制について、今年度中に検討する。

植草副館長 職員については現在、館長を含めて専門職員が4名、事務系職員が3名、嘱託職員が1名、非常勤職員が3名となっている。

小島委員 専門職員における専門分野の内訳はどうなっているのか。

加納館長 考古学の専門が4名で、時代の区分は縄文時代から奈良・平安時代までとなっている。

小島委員 加曾利貝塚博物館と郷土博物館が一体となった協議会で審議することは、大変良いことである。今後は、両者の住み分け、連携事業、両方を考えての計画となっていくだろう。郷土博物館も、昨年度に答申を出して新しい博物館を目指し、通史の博物館と謳っているが、考古系や先史時代は加曾利貝塚博物館が扱っていくという理解で良いか。

潮見部長 加曾利貝塚は縄文時代の遺跡なので、博物館は縄文時代を基本としている

が、加曽利貝塚に限らず、国内ないし世界の研究者が研究できる博物館となるよう設計にしていける。一方で、郷土博物館は、通史の博物館として、千葉市の成り立ちの時代から扱う範囲となるので、若干、加曽利貝塚博物館と重なる部分もある。ただし、基本的に縄文時代は、加曽利貝塚博物館で扱う。

小島委員 ソフト事業では、ホームページが非常に重要だが、加曽利貝塚博物館のホームページはどうなっているのか。

植草副館長 加曽利貝塚博物館のホームページは、平成30年度に大幅なリニューアルを行った。市役所のホームページから独立し、博物館独自のものとして再スタートした。また、SNSも発信力があるので、平成31年度からツイッターのアカウントも取得して発信している。

小島委員 ホームページは、広報の手段だけでなく、アーカイブ的なもの、つまり縄文関係の資料の画像やデータがアクセスできると、博物館の価値も非常に上がる。国内や世界から注目される研究の拠点ということも含め、広報だけでなく、資料的あるいは調査研究に資するようなものを目指してほしい。

鈴木委員 千葉市の博物館では、ホームページに事業報告を掲載しているのか。つまり、年報のようなかたちで、入館者数や場合によっては予算・決算などを公開しているのか。

植草副館長 公開はしていない。

鈴木委員 せっかくサイトがあるので、ホームページに掲載して公開することを検討してほしい。現在はかなりの博物館が、年報というかたちで年度の事業報告を掲載している。市民の理解を得るためにも必要である。また、博物館の事業を記録する意味もある。
もう1点確認したい。しばらくは今の博物館施設を使用するということであるが、博物館へ行ったとき、ミュージアムショップがなかった。今でもミュージアムショップはないのか。

滝田課長 今の施設はミュージアムショップがない。新博物館では、ミュージアムショップや、特色あるグルメを経験できるレストランを検討していきたい。

鈴木委員 新博物館の開館が4年後なので、その間は既に販売されているオリジナルグッズなどを購入できる体制を整えてほしい。来館してもお土産がない点は、経営学的に見てもよろしくない。千葉都市モノレールの駅や千葉市の

関係施設では加曽利貝塚博物館のオリジナルグッズを売っているのですが、博物館で売ることにも検討してほしい。

広田委員 新博物館が2024年に竣工ということであれば、構想が固まっていると思う。基本設計などのスケジュールを教えてください。

滝田課長 今年2月に策定した、特別史跡加曽利貝塚グランドデザインが全体構想となっている。この構想を具体化するために、今年度が基本計画、来年度が基本設計、再来年度が実施設計、その後に工事を2年間予定している。

広田委員 新築の際は、基本計画に行く前が非常に重要なので、面積等も含め慎重に進めてほしい。

鈴木委員 博物館協議会の場で、新博物館の基本構想について報告していただく予定はあるのか。

滝田課長 基本構想については、グランドデザインで、こういった施設を目指していきたいという構想が描かれている。それに基づき、基本計画を詰めているところなので、次回の博物館協議会で基本計画の進捗状況を報告することはできる。ただし、史跡整備と一体で進めていくので、基本的には史跡整備保存委員会で、引き続き中心的な議論をさせていただきたい。

萩原委員長 委員はグランドデザインを初めて見るので、多少の戸惑いはあると思う。次回の協議会で基本計画の進捗状況を報告してくれることでよいか。

潮見部長 何らかのかたちで個別に情報提供させていただきたい。

鈴木委員 グランドデザインについて、策定の経緯を説明してほしい。

潮見部長 以前の博物館協議会では、加曽利貝塚博物館と郷土博物館の両方を審議していた。ところが、加曽利貝塚を特別史跡にしていくことを目指すという流れの中で、史跡整備保存委員会を個別に立ち上げた。この委員会では、新博物館の整備、発掘及び保存計画を審議の対象としたため、数年前に加曽利貝塚博物館と郷土博物館の住み分けを行った。その後、加曽利貝塚が特別史跡となり、博物館を史跡範囲外に移すという議論の中で、周辺の緑地も含め、グランドデザインとしてまとめたという経緯である。このことにより、加曽利貝塚の保存や発掘調査と一体で話が進み、郷土博物館と分けて議論されて来たが、加曽利貝塚博物館については今回の協議会から再び本協議会でご意見を伺うかたちに戻すこととした。

- 広田委員 新博物館という名称で整備が進む中、加曽利貝塚博物館と郷土博物館との役割分担が委員の間で理解できなければ、博物館協議会の場で審議することはできないと思う。博物館として加曽利貝塚が整備されるのであれば、郷土博物館の役割をどのように位置づければよいのか、委員が理解できるようにしてほしい。
- 潮見部長 博物館協議会では、両方の博物館の運営について審議していただきたい。
- 広田委員 新県立図書館が県立中央博物館の近くに建設されるにあたり、県立博物館と新市立博物館の位置付けや空間構成も非常に重要な関係性が出てくる。県と市との役割分担についても、あまり重複しないように明確なビジョンを示すことが重要である。その辺も今後は確認していきたい。
- 潮見部長 加曽利貝塚博物館の館長は県から派遣されており、首都圏の博物館や文化財行政組織との関係も良好である。そのため、県と市との役割分担についても十分協議しながら進めることができる。
- 小島委員 加曽利貝塚博物館については、史跡整備の方面に行き過ぎて計画が進んでしまったが、やはり博物館は博物館である。新しく博物館を建て替えることは大変なことなので、慎重な議論が必要である。博物館としての建物、展示、人員配置、事業などの方向性や、現在の博物館との違いについての説明が不足している。博物館協議会では、新博物館の方向性や課題を丁寧に説明してほしい。
- 萩原委員長 今回から加曽利貝塚博物館が再度審議の対象に加わってきたので、博物館協議会の位置づけを改めて明確にしてほしい。
- 鈴木委員 博物館の整備は、何も無いところから始めると数十年かかることもある。ところが、加曽利貝塚新博物館の場合は4年後に開館する方向である。この辺のタイムラインは決まっているということでしょうか。
- 滝田課長 グランドデザインでは、移転候補地を定めるところまでが決まっている。現在は、新博物館にガイダンス、展示、収蔵及び研究など、いろいろな機能が必要であるという段階である。それぞれの機能の中で、人員、面積、部屋の構成などの方向性を検討し、博物館協議会や史跡整備保存委員会で議論していただくというかたちになる。
- 鈴木委員 史跡整備保存委員会は現在も開催されているのか。
- 滝田課長 年に3～4回程度開催している。

- 小島委員 博物館の基本構想あるいは実施計画等についても、史跡整備委員会が兼ねて議論しているのか。
- 滝田課長 調査・研究をするための博物館という位置付けもあるので、史跡整備保存委員会にも引き続き議論していただく。
- 広田委員 博物館という名前が付いているが、史跡のためのみの機能なのか、千葉市全体の博物館機能なのか、どちらに軸足があるのか。
- 滝田課長 その割合はこれから検討していく。博物館ではなく、新ガイダンス施設基本計画というかたちである。博物館機能はもちろんあるが、ガイダンスの機能も持たせたい。
- 鈴木委員 その辺りは明確にした方がよい。博物館というと、研究施設と展示施設が一体化して活動する必要がある。研究機能などは確保しつつ、ビクターセンター的なガイダンス機能についても検討していくということなのか。その辺を整理しないと、十分な議論ができない。収蔵や研究については別の委員会で検討しているということになると、なかなか博物館としての一体的な議論がしにくい。
- 萩原委員長 加曾利貝塚博物館は、貝塚が破壊されそうになったところを喰い止めて博物館を急遽建てた。一方、郷土博物館は、観光を目玉に造ったので、文化施設としての位置づけは後になってからである。どのように郷土博物館を博物館としてもっと深めていくかが肝要だ。
- 小島委員 設立の経緯を含めると足並みが揃わない部分もあるが、郷土博物館は、博物館としてのあるべき姿について議論するようになってきた。本来的な博物館の機能を充足しなければならないということで、昨年度は答申をまとめた。これから目指すべきこととして、博物館は博物館として運営しなければならない。加曾利貝塚の新博物館がガイダンス施設と聞いて驚いているが、やはり博物館としてきちんとした理念に基づき、機能、施設、人員などを出来るだけ充足していくことを目指す必要がある。昨年度の答申が加曾利貝塚博物館にも当てはまる。新博物館については、史跡整備保存委員会だけでなく、博物館協議会にも情報を提供してもらい、協議できたらと思う。
- 内山委員 両方の博物館に子どもたちが興味を持って足を運ぶにはどうすればよいかと考えて聴いていたが、これ程たくさんのイベントや事業が行われていたことに驚いている。ところで、加曾利貝塚博物館の職員に教員関係者のOB

はいるのか。

滝田課長

教員関係者の OB はいない。

内山委員

子ども目線で考えると、教育的な観点から物事を見る職員がいてもよいと感じた。子どもは体験や創造的なものに興味を示す。また、ミュージアムショップはニーズがあるので、充実した方がよい。さらに、若者を呼ぶことができるような企画を工夫してもよい。

鈴木委員

加曾利貝塚新博物館については、ガイダンス施設として進めているということであるが、博物館法では、ガイダンス施設だと正式な博物館としての登録博物館になることはできない。加曾利貝塚博物館はすでに登録博物館であるのに、新しい施設を博物館と称することにハードルが出てくると、とくに公立施設だといろいろ議論が出てくると思う。教育委員会が所管なので、登録博物館にすることができるが、施設の内容がガイダンス機能だけで、収蔵品がないなどの場合は博物館と称することに困難が生じかねない。よって、施設を検討する際、名称や用語には注意したほうがよい。世界的には、どういう施設を「ミュージアム」と呼ぶのか議論もされているが、現行の博物館法ではそうなっている。そのほか日本では、制度的にも博物館が文化庁の所管になるなどの新しい動きが出ているので、それらに留意しながら進めていかなければならない。

萩原委員長

博物館としての存在意義をもう一度確認したほうがよい。

小島委員

ガイダンス施設は言葉としても抵抗があるし、そのようなコンセプトだと良い博物館にはならない。縄文時代に特化して国内及び世界のモノも扱うということであるが、単にガイダンス施設で扱ってもあまり面白くない。調査・研究機能を備えて、世界的な拠点となるくらいのつもりになってこそ、良い博物館活動ができる。ガイダンス施設として矮小するようなかたちで捉えることはやめてほしい。一方、郷土博物館の事業について、昨年度の特別展は概説的で、あまり目を引く展示資料がなかった。例えば、後世の資料は後から作ったイメージなので、そうした資料で歴史そのものを説明すると齟齬が出てくる。そのため、あまり良い展示手法ではない。独自の調査・研究をきちんと行い、新しい史料を探したり、既存のものであっても良い資料から新しい価値を見出すような展示を行ってほしい。

萩原委員長

いろいろと意見や要望が出たが、特に加曾利貝塚博物館については、それらを参考に進めてほしい。では、議題（１）について、話し合った内容を事業に活かしてほしい。

議事（2）その他

< 質疑応答等 >

萩原委員長　　その他とあるが、意見などがあつたらお願いしたい。

朝生館長　　前回の協議会では、8項目の留意事項をもって、答申をいただいた。その8項目について、現在の取り組み状況を報告したい。

1つ目は、施設についてである。現状施設の中で、各階ごとのリニューアルの検討を開始した。年次計画で2021年度から、1フロアずつ改修できればと考えている。また、汎用性のある展示パネルの一部更新、館内全体のユニバーサル化に向けた改修について、来年度予算の要求を行う。

2つ目は、調査・研究である。調査・研究は博物館の本質なので、博物館として新しい研究を行っていく機能を力強く持つための研究体制の確立や職員体制は喫緊の課題と捉えている。今年度は、総括主任研究員を1名配置して研究体制の基礎体力向上を図り、さらに、年度末に刊行予定の研究紀要については内部で執筆していくように進めている。引き続き、人材の確保や充実に努めていく。

3つ目は、展示及び学習支援、教育普及活動である。特別展については、回数も含めて内容の充実化を図り、来年度予算では、資料購入や複製品の製作委託費などを要求していく。また、展示のキャプションはもちろん、パンフレットや案内板の多言語化を行っていく。さらに、学習支援や教育普及活動については、学校との緊密な連携を図るスキルを持ち、博物館の本質が理解できる方を、エデュケーターとして配置できるよう、来年度に向け要求していく。

4つ目は、専門性の強化である。学芸員、研究者、エデュケーターなどを充実させるだけでなく、施設管理、広報及び販売促進活動等についても有効に業務遂行していくことができるよう、事務系職員の体制強化も検討していく。

5つ目は、来館者の満足度向上である。博物館として非日常感のもと、市民が親しむことができる、あるいは市民が自分たちの博物館と思うような施設を目指す上で、展示や学習支援の充実を図っていく。さらに、多くの方々に博物館の存在、あるいは博物館の有効性を知ってもらえるように努めていく。また、デジタルアーカイブも組み込んだ歴史系ポータルサイトを作成し、来年3月頃の稼働を予定している。次回の協議会では、事前にポータルサイトについて説明する。併せて、来館者の満足度や教育普及の有効性を高めるため、販促グッズの製作や販売について予算を要求していく予定である。

6つ目は、市民との協同である。ボランティア活動の質的及び量的な充実を図るため、展示解説ボランティアの募集を通年としていく。さらに今後は、ボランティアのジャンルを広げて、解説以外の分野も募集していくことを考えている。また、今月から、ボランティアが来館者に周辺史跡の説

明ができるようにした。

7つ目は、合理的で合目的な管理運営形態への移行についてである。研究員が研究にさらに専念できる環境を確保するため、指定管理者の導入も視野に入れて、運営形態の研究を開始した。

8つ目は、博物館の持つ観光資源的側面についてである。博物館全体でも観光資源的側面について議論されているが、当館としては、本来の正当性を確保したうえで、観光資源的な側面についても、ホスピタリティ溢れる運営ができるように素地を作り始めたところである。

朝生館長 次回の協議会は、3月中旬頃を考えているが、委員の都合を確認のうえ、早々に日程を調整していきたい。

潮見部長 加曽利貝塚新博物館の基本計画については、来年3月に策定されるので、その間に中間報告があった段階で、各委員には個別に訪問して意見などを伺いたい。

萩原委員長 他に何かはあるか。何もなければ、本日の議事はここで終了する。

錦織主査の進行により、令和元年度第1回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231